

アラオシ 荒尾市

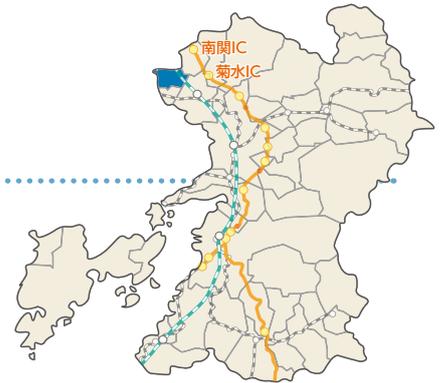


浅田 敏彦 市長

荒尾市が目指しているのは市民が誇りを持って「荒尾市に生まれ育ってよかった」と実感していただけるまちづくりです。自分の子どもや孫にも荒尾市で育ってほしいと思う市民が一人でも増えれば、こんなにうれしいことはありません。快適で暮らしやすいまちをつくる。それを実感していただける「暮らしたいまち日本一」づくりを民間事業者・学術研究機関との強力なパートナーシップで実現していきます。荒尾市とともに新しいライフスタイルの可能性を探っていたいただける企業様からのご支援を、心よりお待ちしております。

寄付御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額30万円以上)
- ・感謝状贈呈
- ・地公体広報誌掲載
- ・HP掲載
- ・視察受入
- ・功労者表彰推薦(寄付額100万円以上)
- ・紺綬褒章推薦
- ・その他



人口
総人口……50,792人
男……23,868人
女……26,924人
世帯数…20,891世帯

面積
総面積……57.37km ²
農用地…14.22km ² (24.8%)
森林…9.11km ² (15.9%)
宅地…10.90km ² (19.0%)

産業構造
第1次産業……1,442(1.3%)
第2次産業…21,831(19.7%)
第3次産業…87,480(79.0%)
生産総額:百万円

人口構成比
15歳未満……12.6%
15～64歳……51.3%
65歳以上……36.2%

教育機関
小学校……10校
中学校……3校
高等学校・高専……3校
大学・専門学校他…1校

高等教育機関
熊本県立岱志高校
全日制課程(普通科)/定時制課程(普通科)
私立有明高校
(看護学科/福祉科/普通科/機械科/電気情報科)
専修学校九州高等商業学校(商科)

交通アクセス
■荒尾市役所まで
九州自動車道 南関ICから……約20km
菊水ICから……約25km
JR 荒尾駅から……約1.1km
JR 南荒尾駅から……約2.5km

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

荒尾市まち・ひと・しごと創生推進計画

あらお未来プロジェクト

(SDGs)関連するゴール



- 基本目標1** 切れ目のない充実した子育て環境をつくる
 結婚希望の実現を後押しするとともに、妊娠から出産・子育てに至るまでのニーズに合わせた切れ目がない支援を行うことを目指す。
- 基本目標2** 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる
 多様性を尊重した地域共生社会の実現を目指すとともに、市民が心身ともに健康であり、生きがいを持って生活できるようにすることを目指す。
- 基本目標3** 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる
 市内における雇用の場を拡大するとともに、若い世代や高齢者、女性や障がい者など、あらゆる方が市内で就職しやすい環境をつくることを目指す。
- 基本目標4** あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる
 本市と継続的に多様な形で関わる人を「あらおファン」と位置づけ、その拡大を目指すことで、最終的に移住につなげることを目指す。
- 基本目標5** 先進的で持続可能なまちをつくる
 コンパクトシティを推進するとともに、先進技術の積極的な活用による日常生活の利便性の向上や、美しい街並みや住環境の形成などによる暮らしの質の向上を目指す。

▶▶▶ 荒尾市

重点
プロジェクト

あらお海陽スマートタウン(旧競馬場跡地) 整備事業およびスマートシティ推進事業

分類 まちづくり

- 総事業費** 11,780,000千円 寄附目標額 10,000千円
- 計画期間** 地域再生計画の認定の日…2021年3月31日～2025年3月31日
- 数値目標**
- 荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合 …………… 80%
 - 居住誘導区域内の人口密度 …………… 42.3人/ha

〈SDGs〉関連するゴール



人・自然・新たな交流を育む拠点

荒尾市は今、2012年に閉鎖された競馬場跡地を活用し、全く新しいまちづくりに着手しています。跡地の広さは、約35ヘクタール。実に東京ドーム7.5個分です。

まちづくりのコンセプトは「ウェルネス」。誰もが安心・安全に居住・滞在でき、まち全体が賑わいと活力に満ちた健康状態を持続した「輝くようにイキイキしている」状態になるまちを目指し、歩みを進めているところです。

また、Society 5.0の実現に向け、AIやIoTなどの先進的技術を取り入れたスマートシティの取り組みにもチャレンジしています。2019年には国土交通省のスマートシティモデル事業「重点事業化促進プロジェクト」、その翌年には「先行モデルプロジェクト」に選定されました。現在取り組んでいるのは、エネルギー、モビリティ、ヘルスケア、防災・見守り、データ利活用の5分野です。

まちづくりのコンセプトであるウェルネス拠点を形成するため、街区ごとに土地利用方針を定めており、住宅のエリアのほか、生活利便施設や公益施設、公園、緑地のゾーンがあります。公益施設ゾーンを中心とした「先進コアゾーン」には、市が整備予定の道の駅や保健福祉子育て支援施設のほか、温浴施設、宿泊施設、運動施設、アウトドア施設などの民間事業者を誘致する予定です。それぞれの施設を単独で配置するのではなく、機能連携・分担しながら、相乗効果で新たな価値を生み出す「機能連携型ウェルネス拠点」の形成を目指しています。



あらお海陽スマートタウンのイメージ図

重点
プロジェクト

市立図書館充実事業

分類 教育

- 総事業費** 116,537千円 寄附目標額 10,000千円
- 計画期間** 地域再生計画の認定の日…2021年3月31日～2025年3月31日
- 数値目標**
- 何らかの地域活動に参加している市民の割合 …………… 75%
 - 平均自立期間(日常生活動作が自立している期間の平均)
…………… 男性79.5年、女性84.4年

〈SDGs〉関連するゴール



みんなに愛される多機能図書館を

2022年4月1日に市内の中心拠点にある商業施設(あらおシティモール)内に荒尾市立図書館は移転しました。

新図書館は、「学びをつたえる図書館」、「交流活動とつながる図書館」、「未来につづく図書館」の3つの柱を基本方針に子どもから高齢者に至るまで幅広い年代に親しまれる図書館を目指します。

デザインコンセプトは、『干潟の図書館』。館内は、ボウリング場だった跡地を活用し、柱がなく、比較的低い書架を配置するなど視認性に優れています。また、おやこのコーナーは、船の形をした書架や小代焼で作った干潟の生き物など子どもたちも楽しめるつくりとなっています。他に、全国の図書館では初めてとなるデジタルライブラリーブースでは、最新のデジタルコンテンツを導入したり、市の歴史や文化、偉人等に関する資料等(伝統芸能の衣装など)の展示も行っています。

充実事業としては、図書(紙の資料、電子書籍)の充実を行うほか、図書館が単なる読書の場ではなく、地域の交流拠点や学びの場としての機能を持たせることで、モール内の他の店舗との相互の誘客を図るなど、市としての魅力を高め、暮らしたいと思われるまちづくりを目指していきます。



洗練されたデザインの館内 佐藤振一撮影

課題 1 子どもが自由に遊べる場所をつくりたい



荒尾干潟で遊ぶ子ども達

まちづくりアンケート等においても、「公園を整備して欲しい」といった子育て世帯の要望を多くいただいています。現在、旧競馬場跡地に「保健・福祉・子育て支援施設」を整備予定であり、広大な空間を生かしながら、ここにしかない発見や体験を提供し、安心して親子で遊べる施設にしたいと考えています。また、遊びを通じた「子どもの健全育成の場」の整備に留まらず、市民の健康づくりや交流促進による賑わいの創出といった地域の拠点づくりも推進していく必要があります。企業様のご支援、ご協力をお願いします。

課題 2 子ども達の学力を向上させたい

本市の児童・生徒の学力は、県内市町村の中でも伸び悩んでおり、長年の課題となっています。子どもたちが主体的に課題を発見し、解決していこうとする力を養うためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた取組みを推進するとともに、自ら学び自ら考える機会の充実を図ることが必要不可欠です。また、市内中学校の卒業者の市内進学率は3割程度であり、人口流出の観点からも、教育面での魅力を高めていくことが急務となっています。



中学校による英検チャレンジの風景

課題 3 特定健診の受診率を向上させたい



体操教室の風景

受診勧奨のため、「受診率向上キャンペーン」を実施するとともに、未受診者に対し、申込状況や過去の受診状況を分析し、電話や文書による勧奨を行っているほか、市内の医療機関とも連携し、制度の周知等を図っているものの、とりわけ若年層の受診は近年の課題となっています。市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、生活習慣等の予防や自らの健康づくりに継続的に取り組むことができるよう、青年期から高齢期までライフスタイルに応じた支援を行う必要があります。

課題 4 コロナ禍でも働ける環境を整備したい

中長期的には企業誘致の受け皿となる新たな工業団地の整備が必要ですが、現状では適地がないため、当面は空き工場や企業等の未利用地などへの誘致活動を展開する一方で、市有施設や民間の空き施設など既存のリソースを活用し、IT系や事務系を対象とした誘致活動を展開しているところです。コロナ禍においては、コワーキングスペースをはじめとする民間施設の活用を検討する動きが活発化しているため、本市としても環境の整備を検討しています。企業様からの様々なアイデアやご支援をお願いします。



テレワークのイメージ図

課題 5 市内の農水産物を広く知ってもらいたい



甘くて美味しい名産のジャンボ梨

農水産業においては、担い手の高齢化や後継者不足が深刻であることから、安定的に生産活動が行えるよう、生産体制の強化を図るとともに、高付加価値化や販路拡大を推進することで、成長産業化への転換を図ることが必要となっています。本市においては、ジャンボ梨やマジックなど全国的にも珍しい名産品が豊富にあることに加え、今後、「道の駅」が旧競馬場跡地に開業予定であるため、これを契機に市内の農水産物の周知をさらに推進していきます。

課題 6 若い世代の移住定住を進めたい

福岡都市圏と熊本都市圏の間にある地理的優位性や、充実した公共交通および道路ネットワークによる通勤・通学のしやすさ、災害の少なさなど、本市の「暮らしやすさ」を最大限に活かしながら、移住しやすい環境を整備することで、本市への転入者の増加を図っているところです。定住人口の増加に向けて、まずは観光分野も絡めたプロモーションを行うことで、本市に関心を持つ人の増加を図るとともに、本市と継続的に多様な形で関わりを持つ「あらおファン」を増やすことで、本市への移住の契機としていきます。



お試し暮らし体験住宅の室内

課題 7 脱炭素社会を実現したい



荒尾総合文化センター屋上の太陽光パネル

「石炭のまち」から「新しいエネルギーのまち」へと転換し、2050年までに本市から排出される温室効果ガスを実質ゼロにすることを目指すため、2021年3月に「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。近年における取組みとして、市施設へ太陽光発電設備と蓄電池を設置したほか、市公用車やオンデマンド型相乗りタクシー（おもやいタクシー）に電気自動車を導入しました。また、Jクレジット制度を活用し、市施設で使用する電力を再生可能エネルギー由来の電力で賄う「自治体版RE100」も推進しています。

課題 8 空き家や空き公共施設を有効活用したい

少子高齢化や都市部への人口流出という人口減少に加え、核家族化の進行や新築住宅の増加等が要因となり、市内の空き家は年々増加しています。本市でも、空き家バンク事業等に取り組んでいますが、とりわけ、老朽化した空き家の増加は、防災、防犯、景観、衛生等のあらゆる面において、大きな社会問題となっています。また、学校規模適正化による小中学校の統廃合等により、空き公共施設も増加していることから、このような建物を有効活用できないか検討しているところです。企業様からの様々なアイデアやご支援をお願いします。



旧荒尾第二小学校の校舎を活用したオフィス